

サカキ・シキミの栽培技術向上に関する研究 (森林技術センターで保存されている品種の形状比較)

森林経営課：藤本浩平・黒岩宣仁

■ 目的

サカキやシキミは、安定した需要が望める特用林産物であるが、近年、生産者の高齢化により全国的に生産量が減少しており、本県でも同様の理由で放棄状態の生産地が各所に見られる。現在の市場でのサカキ・シキミの需要は大きく、特にサカキは、国産品の代替となっていた中国産品の価格上昇もあり、市場はより品質の高い国産品を求めている。サカキは、人工林下での栽培に適していると言われており、その普及が林業経営者にとって安定した副収入源につながる可能性がある。

サカキの葉の形状は、光環境と共に個体間差も影響すると考えられる。本年度は、森林技術センター内に保存されている品種について特性を調査し、葉の形状について整理した。



図1 サカキ小束商品

■ 内容

森林技術センター構内の保存木は、ほとんどの株が由来不明であるため、新たに番号をつけて識別を行った。38本のうち、病気で落葉している個体(No.24)は測定から除外し37本を調査対象とした。保存園は比較的日当たりが良く直射日光が当たる環境であることから、同様の光条件で比較するために、樹冠外側の直射光が当たりやすい枝を選び、各個体5枝について、葉長・葉幅を測定した。求められる商品として、量販店で販売されているサカキ小束(図1)を分解し(図2)、葉長・葉幅を測定し、保存木と比較を行った。



図2 サカキ小束商品の部品(図1商品を分解)

■ 成果

調査した37個体の葉の葉長、葉幅および葉形状比（葉長／葉幅比）は図3～5のとおりであった。小束商品3束（A～C）の平均値は葉長8.4cm、葉幅3.3cm、形状比2.5であった。保存木の中で、これと同程度の葉長・葉幅分布を示し、有意差がみられなかったもの（TukeyHSD $p < 0.05$ ）は、No17（平均葉長8.8cm、平均葉幅3.0cm）、No20（平均葉長8.1、平均葉幅3.2cm）、No28（平均葉長8.0、平均葉幅3.5cm）、No38（平均葉長8.3、平均葉幅3.2cm）の4個体であった。葉の形状比の平均は、小束商品の2.5に対し、No17は2.9で細長く、No20、No38は2.5、2.6でほぼ同程度、No28は2.3でやや丸い形状であった。

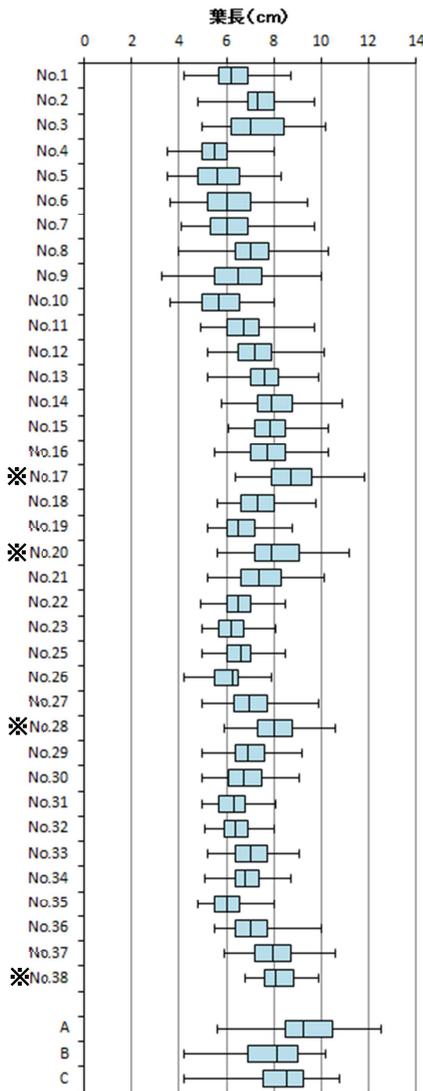


図3 各個体の葉長

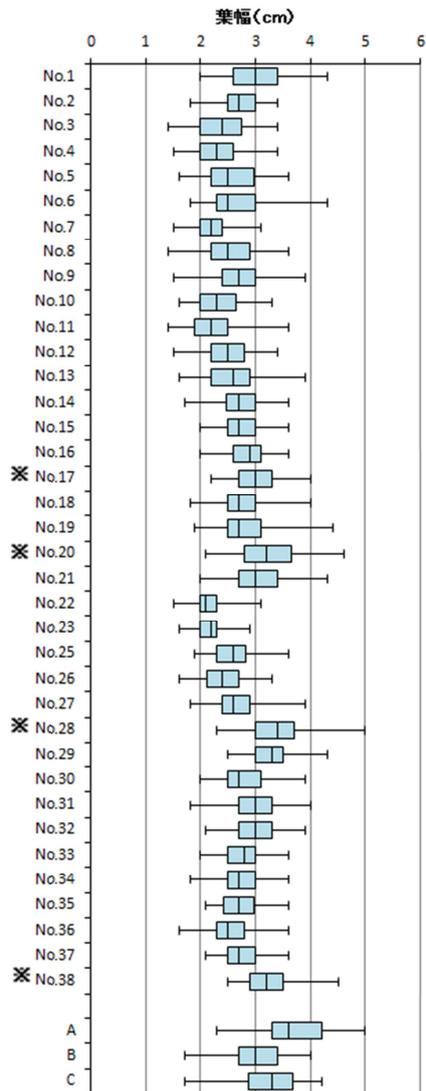


図4 各個体の葉幅

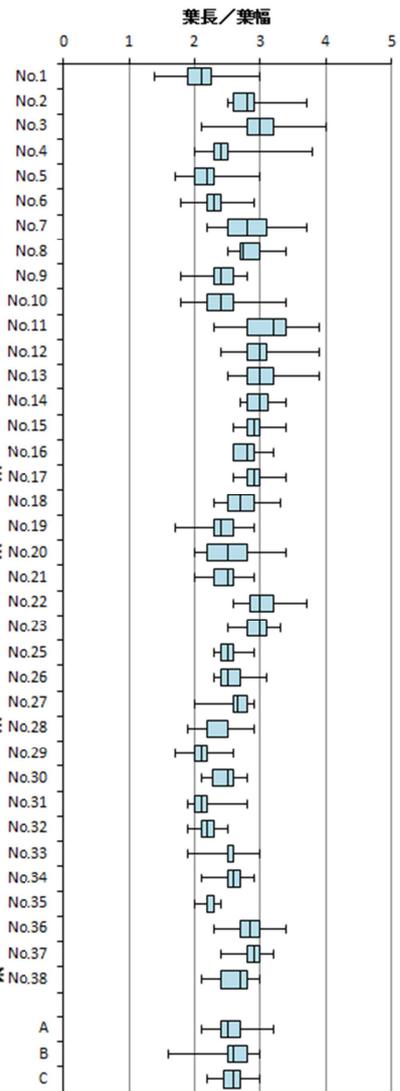


図5 各個体の葉形状比

■ 今後の課題

今後は、葉の大きさ、形状は、その個体が有する特性だけでなく、生育林内の光環境にも影響を受けるため、実際の林内環境で育成した場合について比較し評価を行いたい。

また、保存木の新芽展開やさし木の発根性についても調査を行い、各保存木の特性を示す表をとりまとめようとして有効活用を行うとともに、優良品種を収集していく予定である。